

氏名	大和田 順子
学位の種類	博士（事業構想学）
学位記番号	第33号
学位授与年月日	令和2年9月30日
学位授与の条件	学位規程第3条第3項該当
学位論文題目	SDGs時代における世界農業遺産の役割に関する研究
論文審査委員	主査 蒔苗 耕司 副査 舟引 敏明、風見 正三

論文の要旨

日本の農山漁村は、現在も伝統的で多様な農林水産業が営まれ、美しい農村景観、里山・里海の豊かな自然、農林水産業に関連する文化が伝えられている。一方で少子高齢化、人口減少が進み、コミュニティ機能の低下により、その伝統的な農林水産業の継承が困難な状況になりつつある地域が少なくない。こうした中、伝統的な農林水産業の価値を評価し、保全・継承を促す国連食糧農業機関（FAO）の世界農業遺産（以下、GIAHS）の取り組みが、日本でも2011年に開始され、現在全国11か所が認定されている。導入されて10年が経とうとしているが、その成果や課題は十分に明らかにされておらず、制度が有効に活かされているとはいえない。また、2015年に国連のSDGs（持続可能な開発目標）が採択され、国内でも取り組みが広がっているが、農山漁村では未だ緒についたばかりである。このようなSDGs時代にGIAHSは持続可能な農村づくりに関して、どのような役割が期待されているのか、という問題意識から研究に取り組んだ。

研究の目的は、国内のGIAHS認定地域における取り組みの成果と課題を整理したうえで、GIAHSの可能性、限界性を考察し、SDGsの視点から持続可能な農業・農村づくりの実現に資するGIAHSの役割を明らかにすることにある。

研究方法は、関連する分野の先行研究調査をはじめ、国内のGIAHS認定地域を対象としたアンケート調査、ヒヤリング調査、事例研究を行った。また、マネジメントモデルの開発にはP2M（プロジェクト&プログラムマネジメント）理論を採用した。

研究の結果、アウトカムとして「SDGs活用ステップ」、生物多様性及び人材育成に関する取り組み手法の類型化、及び「地方創生人材育成モデル」等を導き出した。また、宮城県大崎地域を事例に、P2Mの手法を適用し、地域マネジメントモデルを構築した。結論として、これらのモデルを統合し、「都市農村協働力と農山村の持続可能性モデル」を構築し、GIAHS認定地域をはじめ、非認定地域における有用性と今後の展望について明らかにした。

以上、SDGs時代に日本のGIAHSは、世界に認められた固有の農林漁業システムをベースに、農業生物多様性や文化・景観を保全・継承し、都市と農山漁村が支え合う持続可能な農業・農村の創出に重要な役割を担っていることが明らかになった。

審査結果の要旨

本論文は、国連食糧機関（FAO）が運営する「世界農業遺産（GIAHS）」に着目し、SDGs（持続可能な開発目標）の目標達成に向けて、これらの認定地域の取組が持続可能な農村地域の形成に果たす役割を考察したものである。本論文は、七章で構成されており、第1章で

は、本論文で対象とする「SDGs 時代における GIAHS の役割」を定義し、研究の背景・目的・研究の方法論を示している。第 2 章では、日本における GIAHS の現状と課題を整理し、認定地域の特徴を明らかにするとともに、それらの可能性と限界性を考察している。第 3 章では、SDGs の背景や国内での取組状況を整理し、国内の GIAHS 認定地域を対象とした調査結果を分析し、農村地域における「SDGs 活用ステップ」を構築している。以上の考察を踏まえて第 4 章以降では、国内の認定地域において重視されている SDGs 目標 2 「持続可能な農業」、目標 15 「陸の生態系」、目標 4 「質の高い教育」を対象とした GIAHS の取組について考察を行っている。第 4 章では、認定地域での生物多様性の取組を類型化し、その先進的な事例である、「静岡の茶草場農法（静岡県）」と「持続可能な水田農業を支える大崎耕土の伝統的水管理システム（宮城県）」の地域認証制度について考察を行っている。第 5 章では、これらの認定地域における人材育成の取組を類型化し、その中から、「宮崎県五ヶ瀬町」における関係人口創出・拡大事業を取り上げ、関係人口創出と探求学習を統合し、都市と農村の交流におけるソーシャルキャピタル「都市農村協働力」に基づく「地方創生人材育成モデル」を構築している。第 6 章では、農業遺産を活用した地域マネジメントについて、「P2M（プロジェクト&プログラムマネジメント）」を適用し、「宮城県大崎地域」を事例とした GIAHS の普及に関する課題解決のモデルを導き出している。第 7 章では、以上の結論として、これらのモデルを統合し、「都市農村協働力と農山村の持続可能性モデル」を構築し、その有用性と今後の展望について明らかにしている。

なお、本論文を構成する主要な部分は、国際 P2M 学会誌に掲載された「P2M フレームワークを適用した世界農業遺産による農村振興手法の提案」（査読論文）および農業農村工学会誌に掲載された「SDGs の視点からみた国内の世界農業遺産認定地域の活性化」（査読論文）として公表されている。

以上の通り、本論文は、SDGs の概念と GIAHS を関連づけた極めて新規性の高い研究であり、GIAHS 認定地域の豊富な事例分析に基づき、農村振興に資する統合的なモデルを構築し、SDGs 時代の持続可能な農業・農村を牽引する GIAHS の役割を明らかにした論文としての価値は高く、学位論文として十分な新規性・有用性を有するものであるとともに、事業構想学の発展に寄与するものである。

よって、博士（事業構想学）の学位論文として合格と認める。